

令和 2 年度

ICT機器を活用した離島教育環境改善事業 (仮) について

琉球大学地域連携推進機構
背戸博史

令和 2 年度

ICT機器を活用した離島教育環境改善事業（仮）

1. 目的

離島地域に固有の教育課題（高校の不在、学校・学級規模の小ささに伴う教育活動の制約、専科教員の不在、教員研修機会の少なさ等）の解決に向け、ICTを利用した遠隔教育による授業の充実及びICT利用による教員研修機会の拡充に資する実証実験事業を行う。

令和 2 年度

ICT機器を活用した離島教育環境改善事業（仮）

2. 準備委員会の設置

内閣府補助事業の受託に向け、琉球大学内に準備委員会を設置する。事業採択の後は準備委員会を母体として外部委員も加えた検証委員会を組織する。

＊準備委員会委員（案）

地域連携推進機構：背戸博史、柴田聡史、
教育学部：吉田安規良、多和田実、新垣学、
附属中学校：比嘉智也（校長）、

令和 2 年度

ICT機器を活用した離島教育環境改善事業（仮）

3. 実証実験A（案）

ICT機器を活用した遠隔教育（プロジェクトリーダー：吉田）

- ・ 附属中学校←→伊江中学校で遠隔授業等を行う。
- ・ 時期、回数、教科等は未定、検証委員会および伊江村・附属中学校との協議によって決定。

令和 2 年度

ICT機器を活用した離島教育環境改善事業（仮）

3. 実証実験A（案）

～背戸私案～

- * 後述する実験Bと関わって、伊江中学校に専科の教員がない科目が望ましい。
- * 可能であれば実技や生徒間での意見交換がポイントになる科目も選定。
- * 授業に加え、部活や学校行事、給食交流などを行う。
- * 可能であれば常時接続の機器を用意し、生徒間での新たな学校文化の生成を企図したい。

実験後は検証委員会においてアンケートやヒアリング等を行い、成果の検証を行う。

令和 2 年度

ICT機器を活用した離島教育環境改善事業（仮）

4. 実証実験B（案）

ICT機器を活用した教員研修（プロジェクトリーダー：柴田）

- ・ 附属中学校の教員をリーダーとし、伊江中学校を含むいくつかの中学校（離島）の教員で研修グループを形成し、定期あるいは不定期の遠隔研修を行う。

令和 2 年度

ICT機器を活用した離島教育環境改善事業（仮）

4. 実証実験B（案）

～背戸私案～

- * 科目等は検討委員会での協議となるが、実験Aでの科目・授業者を連動させることで、研修テーマの明確化と授業改善の充実を図りたい。
- * 他、専科の教員ではあっても、勤務校に同僚がいないなど、自己研修環境に乏しい勤務環境にある教員等の参加を期待したい。

成果は、検証委員会において検証を行う。

ICT機器を活用した離島教育環境改善事業（仮）

離島教育環境改善事業におけるICT機器
を活用した遠隔授業による教育効果等検
証委員会

（琉球大学）

- ・ 企画、提案、助言
- ・ 進捗管理
- ・ 連絡調整
- ・ 成果検証

連携

沖縄離島ICT教育の在
り方に関する検討会
（内閣府）

- ・ 先進地事例検証
- ・ 関係者ヒアリング
- ・ アンケート調査等

責任者：吉田教授

実験A：遠隔実証授業
（附中－伊江中）

- ・ 授業科目等は検証委員
会で企画（案としては、
伊江中において専科教
員の不在科目）。
- ・ 遠隔授業のほか、部活
交流や給食交流等を行
う（詳細は検証委員会
で決定）。

責任者：柴田准教授

実験B：遠隔教員研修
（附中－伊江中）

- ・ 遠隔実証事業を担当す
る教員を加えた研修グ
ループを形成。
- ・ 専科外授業の質保証に
関する研修等を行う。